

2024年度 自己推薦入試

入学試験問題

人間総合学部 初等教育学科

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. 試験開始の合図があったら、解答用紙の所定の欄に受験番号と氏名を記入してから問題にとりかかること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入すること。
4. 試験時間は、9時30分から10時30分までである。
5. 試験終了後、答案を回収する。問題冊子は持ち帰ること。

白百合女子大学

[設問]

[問題文]は、近年、日常生活の必需品となっているスマートフォンに関する新聞の記事である。この文章を読んで、次の問いに答えなさい。

問題1 問題文を400字以内で要約しなさい。

問題2 子どもにスマートフォンを持たせる時期について、あなたの考えを400字以内でまとめなさい。

【解答にあたっての注意事項】

1. 解答用紙は横書きで使用する。
2. 解答用紙の最初から書き始めること。
ただし、段落の始めは1字下げること。
3. 字数は問題1、問題2に示した通りであるが、改行等による空白も字数に含めること。
4. 句読点は行頭に置かないこと。(前の行の最後のマスの外に記すこと。)
5. 数字やアルファベットは、1マスに2文字を入れること。

(例) ①

令	和	5	年
---	---	---	---

②

平	成	28	年
---	---	----	---

③

20	23	年
----	----	---

④

We	b	ペ	ー	ジ
----	---	---	---	---

⑤

Sh	ir	ay	ur	i	Un	iv	er	si	ty
----	----	----	----	---	----	----	----	----	----

[問題文]

子どもにスマホいつから？

小学生「小さい頃からデジタルに」中学生「危険性判断できる」

情報収集や連絡の手段として欠かせないスマートフォン。子どもたちが手にする姿も当たり前の光景となりました。では、持たせるのに適切な時期は「いつ」でしょう。デジタル機器に早く慣れて使いこなすために小学生の頃から？ 判断力がついてくる中学生以上からでしょうか。

[A論] 小学生もデジタル…視力低下指摘も

3人の子どもがいる東京都の女性(45)は小学2年の次男に、入学と同時にスマートフォンを渡しました。自分が長年使用した「お下がり」の端末です。高校2年の長男、中学3年の長女に買い与えたのは中学入学時でしたが、「上の2人が小学生の頃よりも世の中のデジタル化が進んでネットがより身近になり、小さい頃から慣れてほしい」と考えたからです。

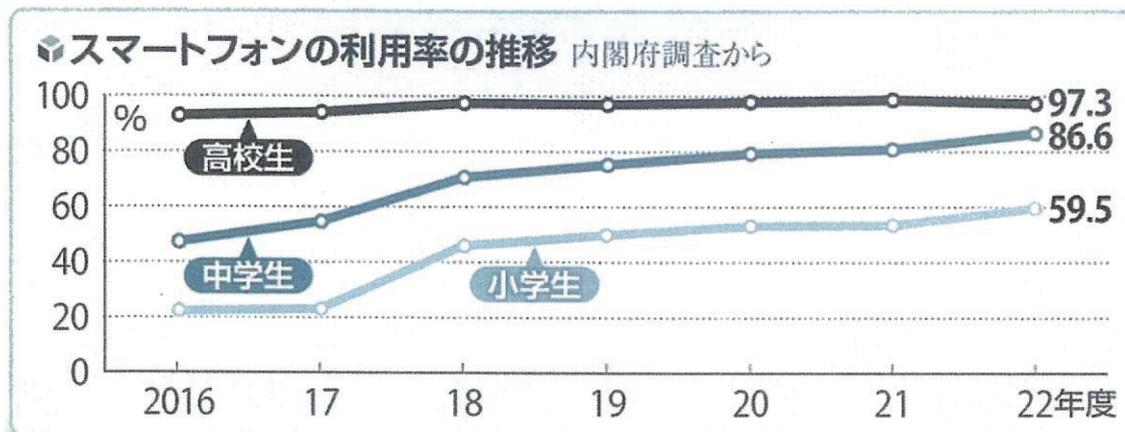


図1 スマートフォン利用率の推移 (内閣府調査から)

次男とは、1日2時間以内で午後8時以降は触らないというルールを決め、学校で習ってきたことやサッカーの動画視聴などに使わせています。「有名選手のドリブルテクニックを見ることで、練習の意欲にもつながっている」と言います。

幼い頃からデジタル端末に慣れ親しむ動きは学校でも広がっています。

政府は2019年末から「GIGAスクール構想」を進め、小学1年から1人1台の端末を配備し、授業での活用を推進しています。デジタル教育を進めるNPO法人「CANVAS」(東京)の石戸奈々子理事長は「デジタルの活用は今や特別なことではない。世界中の人とつながり、自ら発信する機会を生かせるよう、スマホもルールを決めて使うことが大切だ」と話します。

子どもたちはスマホで主にSNSを使っています。塾や習い事に通うようになると、行動範囲が広がります。親は習い事の最中でも気軽にメッセージを残すことができ、スマホは親子間の便利な連絡ツールとなっているのです。

都内に住む女性(32)も小学4年の長男に子ども向けスマホを持たせ、よくメッセージを送っています。GPS(全地球測位システム)を使った「見守り」機能も利用しています。「空手やサッカーなどの習い事に通っていて私も働いているので、居場所が確認できるのは安心だ」と話していました。

ですが、心配なデータもあります。22年度の全国学力テストでは、小中学生がスマホや携帯電話でSNSや動画視聴を行う時間が長いほど、国語や算数などの平均正答率が低くなる傾向がみられました。

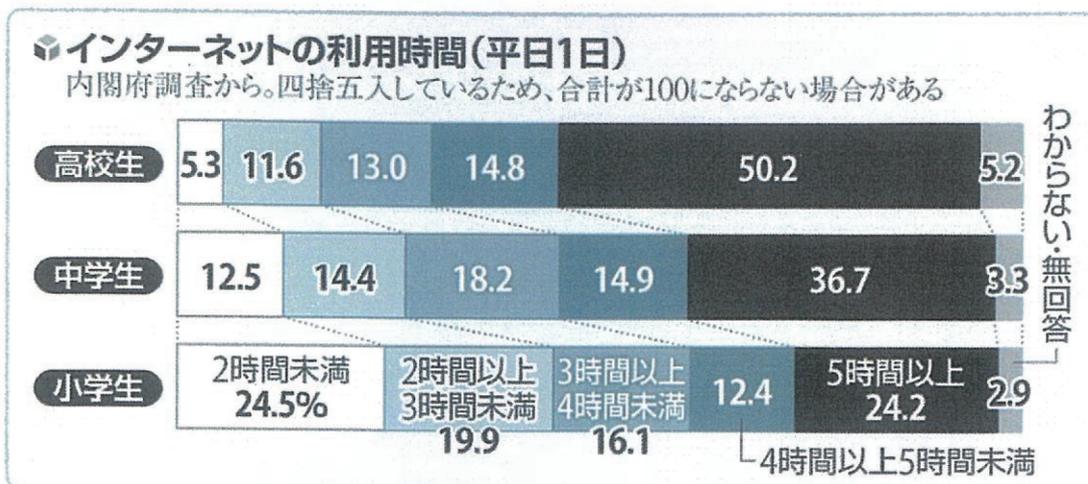


図2 インターネット利用時間(平日1日)内閣府調査から

平日にSNSや動画視聴(学習やゲーム除く)をする時間を聞いたところ、小6では、1日「1時間以上」が50.6%、「4時間以上」も10.9%を占めました。利用時間が長いほど、正答率は低い結果となりました。

視力への影響も心配です。文部科学省の21年度調査では、裸眼視力1.0未満の小学生は36.8%に上りました。10年前より7ポイントほど増えています。スマホの長時間利用が視力低下を招いたと指摘されています。

〔B論〕中学生なら判断力…ネットいじめ増加

千葉県の女性(46)は、長男と次男が中学生になったタイミングでスマートフォンを持たせました。「親の目が行き届かないところで使い過ぎてしまうのが心配で、小学生の頃は機能が制限された子ども向け携帯電話を使わせていた」と振り返ります。

でも、中学生になると友人同士の連絡手段が専らスマホに。「SNSができないと友人関係に支障が出る」と聞き、「中学生なら、危険性や費用などをしっかり説明すれば、一定の判断はできる」と考え、スマホを渡すことにしました。

スマホを利用している割合は学年が上がるほど高くなり、中高生の間では「必携」とも言える状況になっています。通学時間に英単語や歴史用語の暗記アプリを活用している生徒たちの姿もよく見かけます。

文部科学省は2020年、中学生のスマホの学校持ち込みについて、条件付きで認める通知を全国の教育委員会に出しました。危険性や正しい使い方を指導し、閲覧できるサイトを制限する「フィルタリング」を設定することなど、4項目を条件としました。

小中学校への持ち込みを原則禁止としていた文科省が方針転換したきっかけは、18年に起きた大阪北部地震でした。登校時間帯に発生したため、子どもの安否確認に手間取る家庭が多かったといえます。有識者会議で検討した結果、小学校は通学距離が短いことが多い一方、部活などで帰宅時間が遅くなりがちな中学校での「解禁」となりました。

ただ、学校にスマホを持ち込むと、授業中にゲームやSNSをしていないか目を配ったり、預かる場合に保管したりするという学校側の負担は増えます。校内で紛失や盗難があった時の責任問題も起きてきます。

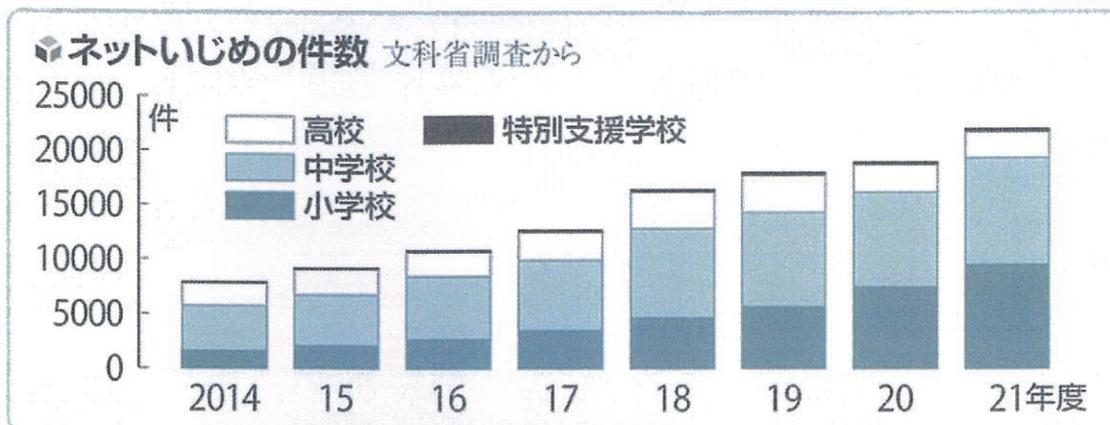


図3 ネットいじめ件数 (文部科学省) ネットいじめの件数は増加傾向

首都圏にある公立中学校の校長は「いじめをはじめ、人間関係のトラブルの大半はスマホから起きてくる」と、ため息をつきます。文科省の21年度調査では、小中高校と特別支援学校で起きた「ネットいじめ」は過去最多の2万1900件に上りました。

埼玉県の男性(45)はネットいじめを心配し、長女が小学生の時はスマホを持たせるのを控えたそうです。「周りが持っている」と主張され、中学生になって渡しましたが「心配は尽きない」と話します。

深刻なのは犯罪に巻き込まれることです。警察庁のまとめでは、22年にSNS利用をきっかけに犯罪に巻き込まれた18歳未満の子どもは1732人に上りました。内訳は高校生833人、中学生718人と、中高生が大半でした。

まずは親子でルール作り

内閣府が2022年度に行った調査では、子どもたちのスマートフォンの利用率は小学生59.5%、中学生86.6%、高校生97.3%です。特に中高生の間では、必須とも言える状況になっています。

情報収集やSNS利用に加え、高機能化したスマホでは、ストレスなくオンラインゲームができるのも特徴です。ただ、ゲームに過度にのめり込むと、日常生活に著しい悪影響を及ぼす恐れもあります。世界保健機関(WHO)は19年、こうした状態を「ゲーム障害」と位置づけました。

ネットの長時間利用も懸念されます。内閣府調査では、平日の1日に「5時間以上」利用していたのは中学生の4割弱、高校生では5割に達しました。「趣味・娯楽」目的の利用が多数でした。

厚生労働省研究班の17年度調査で、ネット依存の恐れがある中高生は推計で93万人に上ることも明らかになっています。5年間で約40万人増えたとしています。

ネット問題に詳しい兵庫県立大の竹内和雄教授(生徒指導論)は「ネットの世界は第三者と交流し、外部に発信できるなど日々進んできている。ある年齢で区切って、スマホを自由に使えるようにするのは無法地帯に放り込むようなものだ」と指摘します。そのうえで、「まず、親子で一緒に話し合っただけの納得感のあるルールを決めてみてはどうか。子どもが安心できる環境で少しずつ失敗や経験を重ねる中で、危機管理や適切な使い方を学んでいけるのではないかと話しています。

(教育部 伊藤甲治郎、江原桂都、宇田和幸)

(出典：読売新聞 2023年(令和5)年9月15日「The 論点」)